

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> その他（食育）	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「大地に生きる手鎌～農業と文化を干拓の歴史に学ぶ～」を活動テーマとして、ESDを健康で生きがいのある暮らしとまちづくりのための教育と捉え、ESDの実践を通して、地域を愛し、地域のために共に行動する力の育成を目標とした。

具体的には、地域とのかかわりを深める体験活動を柱に、①食への関心と健康な生活にかかわる活動、②地域とつながる農業体験にかかわる活動、③地域の食文化体験にかかわる活動を行っている。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 郷土を知り、郷土の食文化を大切にしていこう学習

校区の様子について調べる学習を行う中で、手鎌校区で海苔の生産が行われており、「海苔作り」は、手鎌校区が面している有明海で行われている伝統的な産業であり、食文化であることを学んだ。子どもたちは地域で海苔作りに携わっている方に話を聞き、その中で、伝統を受け継ぐ地域の方々の思いや願いについて考える活動を通して、全国に誇れるおいしい「有明海苔」を生産している地域のよさや特色について知ることができた。海苔漉き体験を通して、「有明海で行われている海苔作りの伝統を守りたい。そのためにも、有明海をきれいな海にしていきたい。」との思いをもち、SDGs14に通じる活動となっている。



## ○ 郷土の歴史に触れ、郷土の伝統を守り、受け継いでいく学習

校区の歴史を学ぶ中で、干拓によりできた地域であることや先人の大変な努力と苦労によって手鎌地区が築かれたことを学んだ。そして、それを乗り越えた『潟いね踊り』という伝統文化を中心に位置付けた学習を行った。干拓仕事の厳しさと仕事への誇り、そして、継承してきた保存会の方々の思いを『潟いね踊り』を通して学ぶ中で、「郷土の伝統文化」について考えた。学んだことをリーフレットにまとめて地域に発信したり、地域のお祭りに参加し、『潟いね踊り』を披露したりすることで、地域の伝統を受け継ぐ学習を行った。



## ○ 校区の成り立ちから、地域での防災・減災について学習

干拓地である手鎌地区は水が溜まりやすい土地であることから、大牟田市で起きた水害を自分事と捉え、地域の一員としての在り方について学習を行った。防災センターでの体験活動を通して、災害の恐ろしさや対策の重要性について学び、市の防災室の方々には、より身近な大牟田市の実態から指導していただき、自分達にできることを考え、安全マップやマイタイムライン表等を発信・共有した。このことは、子ども達がメッセンジャーとして防災・減災の意識を発信する重要な取組となっている。



## 3 今後の活動計画

令和6年度は、E S Dにおいてさらに、郷土教育を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 横断的・総合的なE S Dの実践を通して、P D C Aサイクルを確立させながら、令和5年度までの実践をさらに高めていく。
2. 郷土教育（食育、防災・減災教育）の目指す資質・能力を明らかにしながら、系統的なカリキュラムになるように見直しを図っていく。
3. 身近な「ひと・もの・こと」も最大限活用できるように、活用力・指導力のブラッシュアップも図っていく。
4. 様々な体験活動や協働学習を促進し、子ども達が自信をもって活動を広げていくことができるようにする。